新校舎落成式典のあいさつ

一雨ごとに春めいてくる早春の今日、大勢の卒業生の皆様に集まっていたことを大変感謝しています。みなさま方とともに、職員生徒一同、新校舎の完成をお祝い出来ることを心からうれしく思います。

本校の校舎の建設は今回が3回目となります。最初の校舎は、本校が香川県立大川中学校として正式にスタートした年、明治36年（1903年）に現在の南新町商店街の場所に造られた木造校舎です。この校舎が明治、大正、昭和と約60年間の長きにわたり使われたあと、学校は小高い丘を造成したこの地に新たに建設されることになりました。昭和38年から工事が始まり昭和41年に移転が完了しました。この2番目の校舎建設にあたっては、地域の方々や同窓生の熱い力が結集され、当時西日本随一の規模と言われるほどのりっぱな学校が完成しました。それは一つの学校の建設というより商店街を含む三本松全体のまちづくりともいべき大規模なものでした。東京オリンピックが同じ時期の昭和39年、国道11号線の開通も同じ年で、高度成長の真っただ中の時代でした。この当時、生徒数は本校の歴史上最高で1400人近い生徒が在籍していました。今の約3倍近くの生徒数です。そして、それから約50年が経過し、3つ目の校舎が今、2017年（平成29年）春に完成しました。

さて、校舎建設にあたって、私が県に要望していたことが二つあります。一つは、学校の庭をできる限り維持してほしいということです。前庭にあるクスノキやマツの巨木、ウバメガシなどは旧校舎から移植して根付かせたものですし、中庭のケヤキは学校創立80周年を記念して植えられたものです。何とかして切らずに残してほしいということでした。マツが一本枯れてしまったり、石の位置が変わったりしましたが、どうにかほぼ原形を保つことができました。

二つ目は、百年間にわたる学校林作業で、生徒の手によって育てられたヒノキの材を校舎のどこかに使ってほしいということです。これは、玄関のピロティの天井部分や南館から百周年記念館へ抜ける通路の壁面にうまく使ってもらえたと考えています。この後、ぜひ見学していただきご覧になって下さい。

校舎は新しいものにすっかり変わりましたが、学校には変わらないものがあります。それは、長い年月によって形作られてきた伝統や校風です。質実剛健の精神、体育祭や文化祭でみられる自主性、先輩を重んじ仲間を大切に作る態度、そして母校とふるさとを愛する気持ちなどがそうです。このようなよき伝統や校風はしっかりと守り受け継いでいってほしいと思います。そしてそのうえで、さらに新しい校舎にふさわしい新たな伝統も付け加えていってほしいと思います。新しい校舎の中で、生徒一人ひとりが澁刺とした清新な気持ちで学校生活を送り、日々努力を怠らず一生懸命励むことで新しい歴史が作られるのだと思います。学校というものは、校舎ではなくやはり生徒が造るものです。生徒の皆さんのこれからの活躍を大いに期待したいと思います。

校舎の建設に際して、同窓会である大中三高会から多くの支援をいただきました。そのうちの一つをここで紹介しておきたいと思います。それは、各教室にとり付けられた木の室名札（ネームプレート）です。室名札はホームルームや特別教室など全部で50以上ありますが、全部種類の異なる木を使っています。日本中に生えている木を全て集めたと言ってもいいぐらいの種類です。木目が一枚一枚違っていて大変美しいものです。これは生徒一人ひとりの異なる個性を平等に大切にすることを表したものですので、これも後でぜひ見学して行って下さい。

私自身三月で退職し教員を卒業しますが、一人の卒業生として同窓会の皆様とともに、母校を陰ながら見守って行きたいと考えています。新しい校舎の元での生徒の皆さんの活躍と学校の発展を期待し、また、お集まりの皆様すべてのご健勝をお祈りして新校舎落成式典のあいさついたします。本日はありがとうございました。

平成29年3月2日